

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	旭川医科大学				
取 組 名 称	高大病連携によるふるさと医療人育成の取組				
取組学部等	医学部医学科				
申 請 区 分	上記以外の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A31003	申請の形態	単独	取 組 期 間	3年
申請の分類	職業教育	高大理連携		地域活性化	
キーワード	高大病連携, 地域枠, 地域医療教育, 生涯学習, ふるさと医療人				

<選定理由>

本取組は、医療過疎の北海道において、地域の医療ネットワークをベースとして人材育成を図り、地域のニーズに応えようとするプログラムとして高く評価できる。特に、高校・大学・病院の三者が連携して、高校生の地域医療体験・入学者選抜・入学後の学部教育・道内での卒業後の研修という一貫した流れの中で人材を育成しようとしていることは、地域医療人を育成するという観点から見て、この取組の目的達成のために大きな意義を有するものである。また、大学がこの取組の意義を高く位置付け、これまでに地域枠入試の拡大、カリキュラム開発等に積極的に取り組んできた実績を有していること、プログラムの実施について具体的な計画を立てていること等、取組の実現性についても評価できる。

今後は、高校と大学・病院の連携に当たり、高校側の考えや要望を受け止めつつ協力を一層推進することが必要であると思われるので、取組実施に当たっては、この点に留意しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

広大な北海道では、札幌・旭川の医師数が 10 万人対 300 人近くありながら、依然として 10 万人対 100 人を切る医療の手薄な地域が存在する。医師の地域偏在を背景とする医療過疎の増大には、地域大学単独の学部教育改善では解決しない要因を含んでいる。旭川医科大学は「北海道の地域医療問題を解決すること」を目的に昭和 48 年に設立された。本学は、医師養成を高校生からと考え、長期間の医療人育成構想を持っている（下図）。本取組は、「地域社会が地域の医師を育む」という視点から、「高大病連携」の中心となり地域と一体となって、地域医療に貢献できる医師を養成し、将来北海道内各地に従事する医師、すなわち「ふるさと医療人」を増加させようという、全学を挙げた取組である。本取組は、北海道内各地の医師を志す若者が、大学卒業後、道内の比較的医療が手薄な地域に従事すること、および卒後も地域医療のヘルスコーディネーターとして活躍できるように生涯学習を実践し後継者の育成ができる人材となることを目標とする。具体的には、図の囲い実線項目の実現への取組である。

1. 「医療人としての職業観」の自覚

高校生に「医療人としての職業観」の自覚を促すことを目的に、地域医療を学ぶ教育の場を提供する。「高大病連携」となる人材育成、実習プラン、評価法等のサポートを提供する。上記実習体験を、人物評価重視の「地域枠入学者選抜」へ反映させていく。

2. 入学者選抜における取組—地域枠の拡大—

平成 19 年 5 月の政府与党決定の「緊急医師確保対策」を受けて、平成 20 年度入試から「地域枠推薦入学」「学士編入学（北海道地域枠）」を導入し、さらに平成 21 年度入試から「AO 入試北海道地域枠」を新設した。入学定員 100 名のうち、その半数となる 50 名を北海道出身者から選抜するという全国国公立大唯一無二の定員計画である。

3. 学部教育における取組—6 年一貫の重層的地域医療教育—

定員の半数を占める地域枠入試の入学者は、卒後本学の指定する道内の研修病院での研修を誓約している。卒後研修をより実りあるものとするために、在学中 6 年間のモチベーションを維持するための方策が必要である。導入予定の「2009 カリキュラム」においては、重層的地域医療教育を実践する計画である。

